

TOWARDS A

梅田のミライの歩き方
—歩いて楽しいまちづくりへむけて—

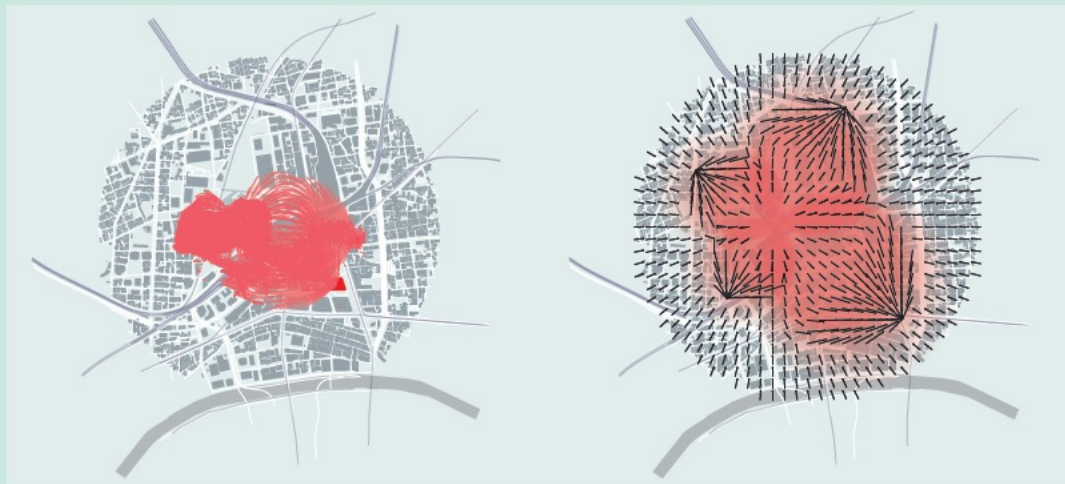


ハイパー

ウォークアブル

シティ

HYPER WALKABLE CITY



HOW TO WALK ON THE FUTURE CITY IN UMEDA?

日本とオーストラリアの建築学生が梅田のミライを提言します。

大阪・梅田地区は一日の乗降客数が250万人を超える西日本最大のターミナルを有する地区であり、周囲に業務地区、商業地区が高密度に集積しています。近年では梅田貨物駅跡地(約24ha)を中心とするうめきた地区の開発やJR大阪駅のリニューアル、梅田1丁目1番地プロジェクトなどが進んでおり、梅田の街は大きく変貌を遂げている過程にあります。大阪・梅田の大きな変化を単に床面積の増加に終わらせるのではなく、巨大都市における「生活の質」の新しい地平を切り拓く機会ととらえ、未来の大阪・梅田における「ウォークアビリティ(歩きやすさ、歩いて楽しいこと)」を今一度問い直します。

立体的な都市空間(ハイパーシティ)における「歩きやすさ」とはなにか。この野心的な課題に日本(神戸)とオーストラリア(メルボルン)の建築学生が挑戦し、〈梅田のミライ〉を提案します。

公開ファイナルレビュー「神戸大学 減災デザインセンター Kick Off イベント」

2017 **9/16** 土 16:00~19:00 (開場 15:30)
定員100名(先着順) 入場無料

会場 | うめきた SHIP ホール 大阪府大阪市北区大深町4-1

講評者 |
福岡孝則 [ランドスケープ・アーキテクト、東京農業大学准教授]
保志場固夫 [三菱UFJリサーチ&コンサルティング 主席研究員]
堀口徹 [近畿大学建築学部准教授]
遠藤秀平 [神戸大学教授]
櫻橋修 [神戸大学准教授]
Arl Sellgmann [モナシュ大准教授]